デジタル地域通貨の可能性

「クマポ」



令和7年11月10日
市民部市民活動推進課

KUMAGAYA SMARTCITY

≪　熊谷スマートシティとは≫

　熊谷市は、「やさしい未来発見都市 熊谷」というテーマのもと、デジタル技術を活用した、誰もが自律的に幸せを追い求めることのできる未来を目指しています。
　具体的には、スマートフォンなどを利用した新しいサービスの提供や、気象データ・人流データやスマートフォンアプリの利用データなどを同意の上で収集・分析し、市民サービスの向上を図っています。
　こうしたサービスは、LINEからアクセスできる「都市ポータルアプリ「クマぶら」」を入口として利用可能です。

●利用可能なサービスの例
- 地域の情報やクーポン
- スマートフォンを使った様々なイベント
- クマPAY（地域電子マネー）
- クマポ（コミュニティポイント）
- コミュニティバスのスマホ回数券

≪　熊谷市における地域通貨　≫

熊谷市における地域通貨は2種類



クマPAY

市内加盟店でのお買い物やコミュニティバスの回数券購入に利用できる地域電子マネー「クマPAY」

クマポ

換金性がなく、特典を受け取ったり、市民同士の感謝の気持ちとして渡せるコミュニティポイント「クマポ」

※換金性がないとは…法定通貨（円）には変換できないこと。
1クマポ＝〇円ではない。

≪「クマポ」の概要≫

「クマポ」とは？

「クマポ」は、ボランティアや地域活動等の「まちを元気にする」活動の参加者に市が付与するポイントです。

「クマポ」は「クマPAY」と同じLINE上のシステムで運用します。

「クマPAY」が現金をチャージして、市内の店舗等で日本円と同じ価値を持つ、QRコード決済の仕組みであることに対し、「クマポ」は換金できません。

クマポは市内で様々な活動をする方の間で循環するポイントです。

ためた「クマポ」は市や協力団体の提供するサービスや記念品と交換できます。また利用者間でもらったり、あげたりすることもできます。「クマポ」の循環で人のつながりをつくり、共助やコミュニティ活動の活性化を図ります。

「クマポ」でできること



≪クマポをためる≫

　イベント会場等に設置された二次元コードをスマートフォンで読み取ることで、「クマポ」を受け取る。

たまる事例

・初回ログイン感謝ポイント　　100クマポ／人
・ボランティア活動　　活動時間に応じて100～500／回
・イベント参加　　50クマポ／回
　（付与団体登録数　12団体）
　（付与イベント等数　149イベント（予定含む））
・市のアンケートへの回答　　100クマポ／回
・ゆうゆうバス降車データ登録　　10クマポ／回
・シェアサイクルアプリとの連携

など

これから実施されるたまるイベント

・星川夜市（第2土曜日）
・産業祭（11月15日、16日）



≪クマポをつかう≫

ためた「クマポ」を使い、市や協力団体の提供するサービスや記念品を受け取る。



市が用意した記念品

・キーホルダー（100クマポ/個）
・ハンドタオル（200クマポ/枚）　・マフラータオル（500クマポ/枚）
・体験サービス（5,000クマポ/1体験）　など

協力団体が提供するサービス　（協力団体（店舗）数　13店舗）

抽選会（ためたクマポを使って応募できる抽選会）

これまでに2回抽選会を開催。

景品は、とろろご飯セット、軍配せんべい、
五家宝など市の特産品や、
お店で雪くまが食べられる、
ビジター体験トレーニングなど用意しました。





≪クマポをわたす①≫

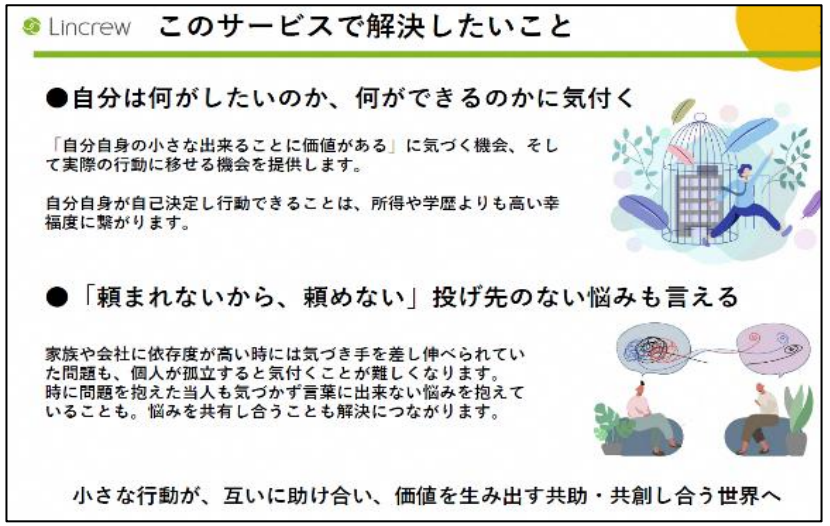
「クマポ」は、利用者間でもらったり、あげたりでき、感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできる。

クマポプレイスの運用

クマポの利用者が自身の「できる」こと、「もとめる」ことを投稿できるようにすることにより、そこでつながった利用者間の新たなコミュニティの構築、既存コミュニティの拡大など、地域コミュニティの活性化につなげる。また、クマポの利用及び循環の促進にもつながる。

クマポプレイスはWebサービス「Lincrew(リンクル)」を利用。





≪クマポをわたす②≫

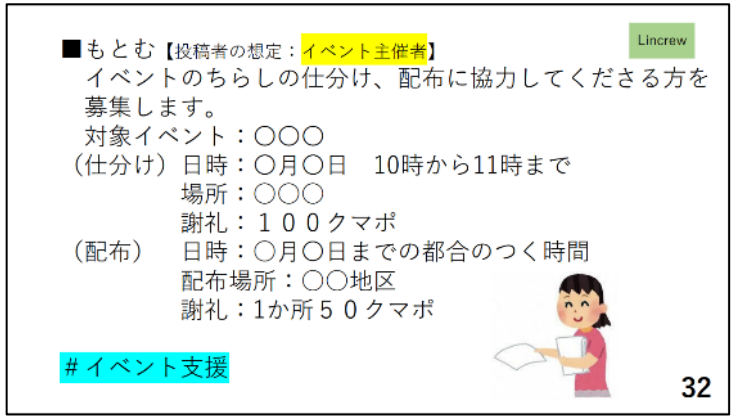
「クマポ」は、もらったり、あげたりでき、利用者間で感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできる。

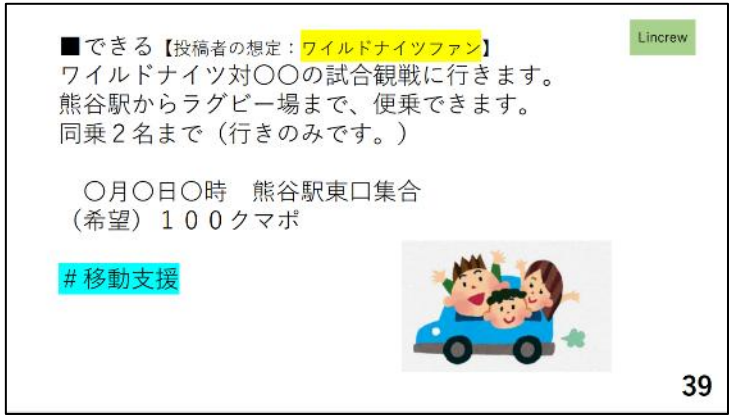
クマポアイデア集の作成

クマポ、クマポプレイスの活用アイデア集を作成し、市ホームページ等で公開。

アイデアは、コミュニティポイント活用会議メンバー、市職員、ワークショップ参加者から募集。







≪クマポをわたす③≫

「クマポ」は、利用者間でもらったり、あげたりでき、感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできる。

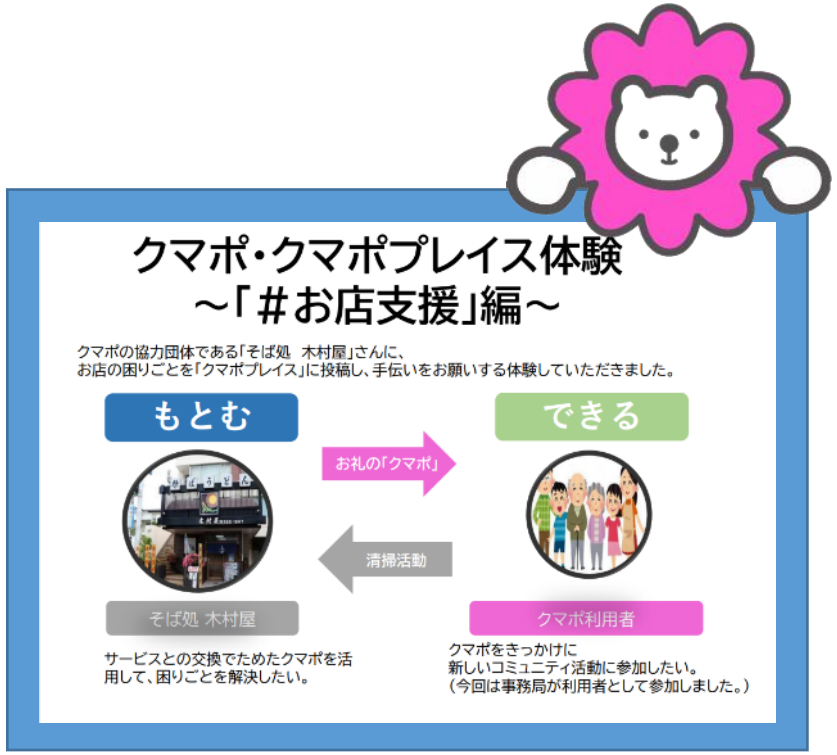
クマポプレイスの運用

実際にクマポ、クマポプレイスを体験してもらい、その様子を市ホームページに掲載しました。

＃移動支援



＃お店支援



≪クマポの取組①≫
「子どものまち」でのクマポの活用について

※イベント内の通貨として「クマポ」を活用しました。







令和6年度に市民活動団体「ぷちくまがや」が
熊谷市民公益活動促進事業ステップアップ助成金を活用し、
みんなでつくるこどものまち事業を実施しました。

【事業概要】
全国的に行われている子どもが自分たちでお店の企画等を考え、まちをつくる「子どものまち」を熊谷で行う。

【特徴】
お店で店長をしたり、お店の体験をすることで発想力をはぐくむ。
お店を現実の「まち」のイベントの出店店舗の 1 つとして出すことで現金のやり取りや、クマポを活用したデジタルのやり取りなどの体験できる。
そして、自分自身が考えたお店を出店することで自信をつけること、うまくいかなかったときにはどうやったら、解決できたかを次のイベント時までに考えることで自主性をはぐくみながら、自分自身の自己肯定感を高めることが期待できる。

【クマポの活用】
参加した子供たちやボランティアで協力した方にクマポ付与。
クマポをまち内限定の通貨として、射的に参加したり、射的の玉数を増やすなどの手段として活用。

≪クマポの取組②≫
立正大学学生グループとの協働



【目的】
「クマポ × 地域活動 × 若者参加」
若い世代にクマポを活用した地域活動への参加促進

【取組】
〇立正大学学生にクマポを知ってもらうためのイベントの実施
- 月1回(10月から翌年1月)学内にクマポブースの設置
- 星霜祭(立正大学熊谷キャンパスの学校祭)にクマポブース出店
(クイズ大会、スタンプラリー等)







≪クマポの取組②≫
立正大学学生グループとの協働

@RISSHO.KUMAPO



- SNS(Instagram)を活用したクマポ情報の発信
- 立正大学生が企画運営するコミュニティFM番組の放送
  ←毎月第3火曜日19:00～放送中 「りすチャン」の
  視聴者、お便りをくださった方にはクマポがたまる取組実施中
  ※「りすチャン」…立正大学研修推進・社会貢献センターの事業として2019年より始まった熊谷の立正大学学生が企画放送するFMクマガヤの番組
- 抽選会の開催及び景品を用意するためのクラウドファンディングの実施

○クマポを通じた市民(地域)活動に立正大学生の参加を促す取組の実施

- 星川夜市等地域イベント運営へのボランティア参加
- まちなかでの市の実証実験への参加
- 市内で活動する市民活動団体等への協力

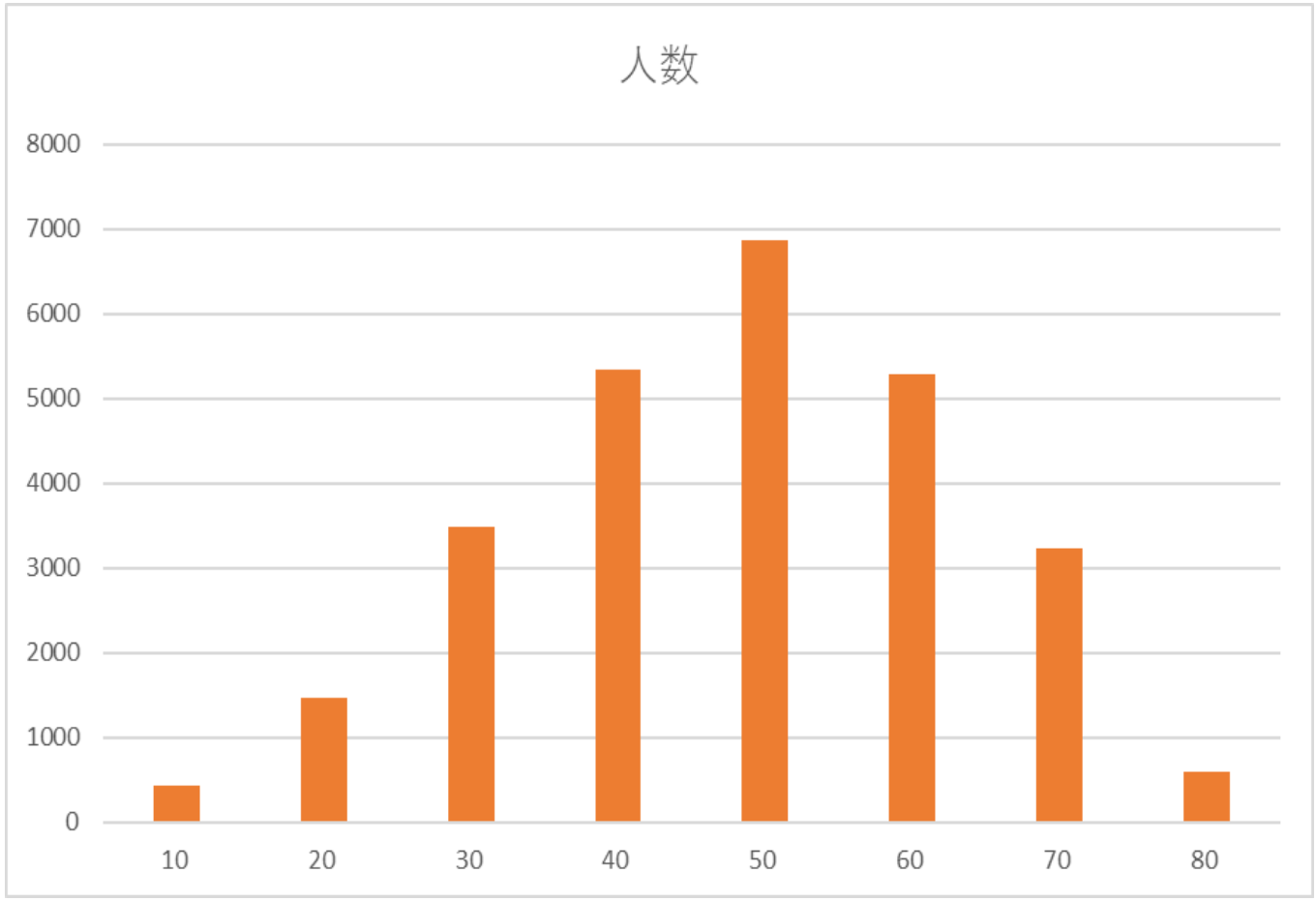
≪クマポの現状≫

令和7年11月1日時点

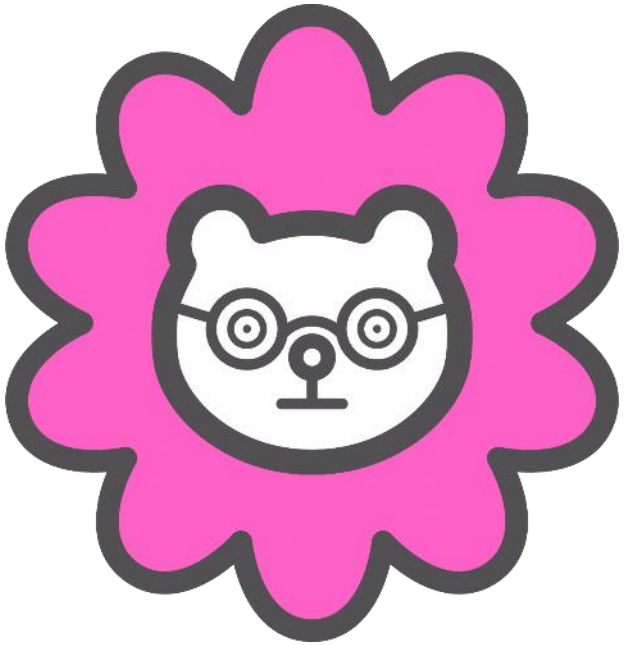
利用者数　　26,739人
総流通クマポ数
4,009,465クマポ
年代別利用者数

～10代	439人
20代	1,473人
30代	3,497人
40代	5,346人
50代	6,863人
60代	5,285人
70代	3,230人
80代～	606人





実際に、考えてみよう！



名前：

課題発見＆解決シート

①皆さんの「できる」を活かすクマポの「ためる」「つかう」「わたす」を考えよう。

②若者世代（高校生・大学生）の利用を促進する取り組みを考えよう。

③換金性のないコミュニティポイント「クマポ」。換金性がないからできることとは。

--参考URL--

①コミュニティポイント「クマポ」
https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/kumapo/kumapo.html

②クマポプレイスが利用しているWEBアプリケーション Lincrew
https://lincrew.jp/about

③渋谷区コミュニティポイント「ハチポ」
https://www.hachi-pay.tokyo/hachipo/

④鎌倉市SDGsつながりポイント「クルッポ」
https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/tokumei/sdgs2024.html#kuruppo

⑤大阪府八尾市コミュニティポイント「やおやお」
https://www.city.yao.osaka.jp/sangyou_business/sangyoushinkou_kigyoushien/1014674/1012834/1008794/1012837/1008790.html

⑥特定非営利活動法人くまがや地域通貨研究会
https://ameblo.jp/kuma-emi/

⑦まちのコイン（地域の魅力を発見するコミュニティ通貨）
https://coin.machino.co/